



SHM-000

清水東地区



三留誌

概要版



SHM-001

清水東地区



三留誌

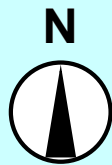
三留誌の表紙に使用した氣比神社
の写真（平成30年9月2日）



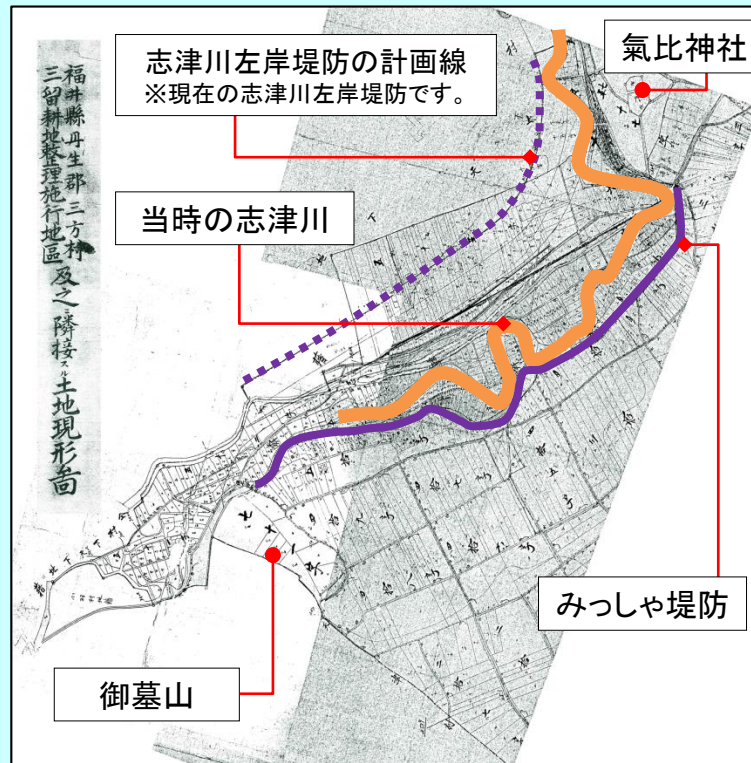


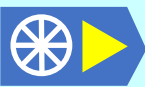
三留誌

志津川を中心に測量図をわかりやすくしてみました。



昭和5年の志津川改修測量図によると、江戸時代の御墓山から氣比神社までの志津川は、激しく蛇行しつつ現在よりやや南側を流れていました。又、三和橋から下流部分も激しい蛇行状態でした。



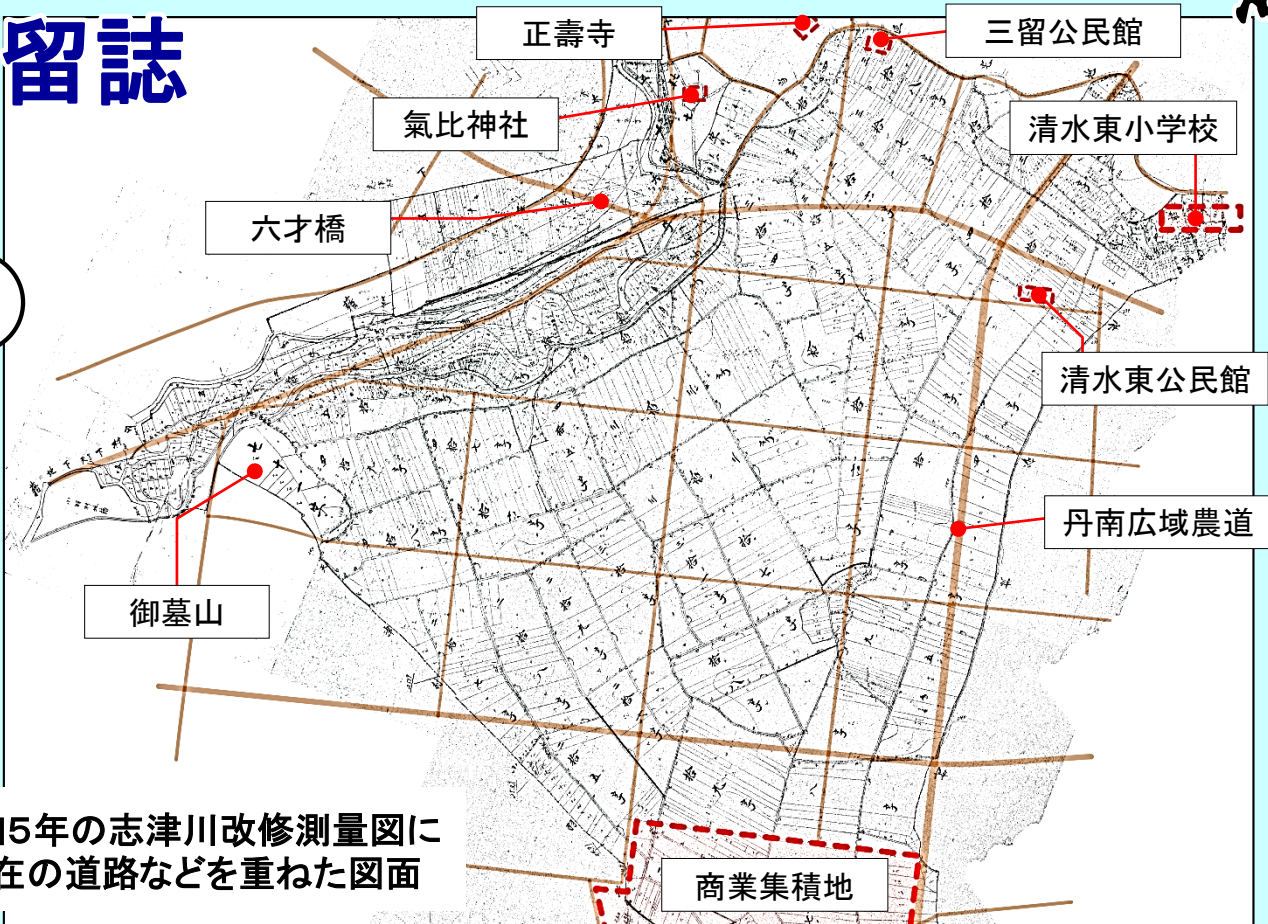
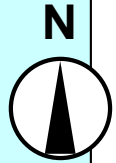


SHM-003

清水東地区



三留誌



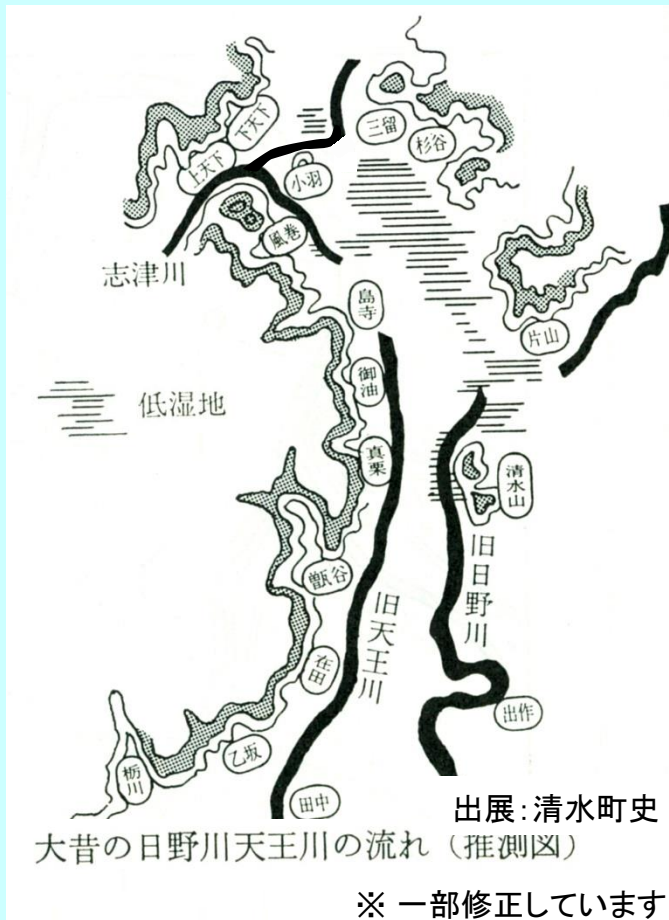
昭和5年の志津川改修測量図に
現在の道路などを重ねた図面



三留誌

P1

太古の三留





SHM-005

清水東地区



三留誌 P4

氣比神社創建の大檀那



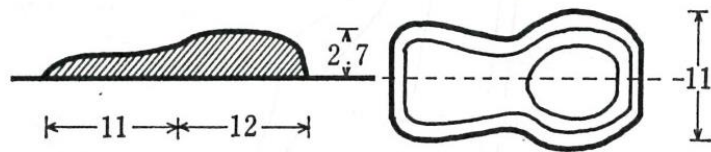
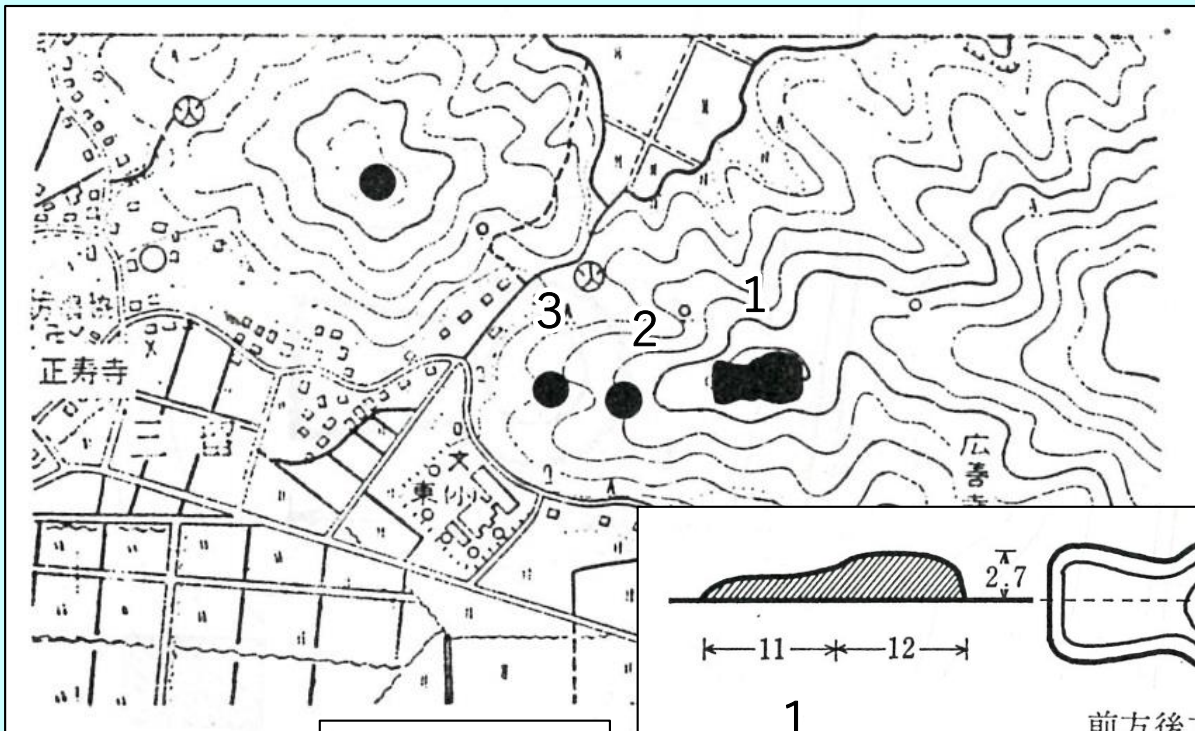


SHM-006

清水東地区



三留誌 P5 三留の古墳考察



1

前方後方墳

三留杉谷古墳

出展: 清水町史



SHM-007

清水東地区



三留誌 P7

朝倉氏一族と正壽寺



三留バス停付近より正壽寺に向かって小型無人機で撮影しています。



三留誌 P8 朝倉氏一族と正壽寺

お城があった名残

今でも、お城にちなんだ小字名が残っています。三留町41字の「後垣内」や61字の「御陳垣内」などがそうです。

「後垣内」は、もともと「御城垣内」でしたが、三留城の落城後、更地になってしまったので、近隣住民が木を植えたところ、後年巨木になりすぎ、その木の北側は日陰でうっそうとしてしまいました。その木の後ろ側ということで、後世、「御城垣内」から「後垣内」(※おしろ→うしろ)となまってしまい読みが変わってしまった、という面白い言い伝えがあります。

また、「御陳垣内」については、地元三留町では、(ごぜんがいち)とも読んでいます。(ごぜん)とは、奥方様の事であり、奥方様に関する何か(館?)があったのかもかもしれませんとも言われています。なお、もともとは「陳」という字は「陣」でした。どうして漢字が変化したかについてははっきりしていませんが、「陳」「陣」いずれも陣立ての意味があり、先陳・本陳(せんじん・ほんじん)などと書かれた様々な史料も多いため、古くから「陳」「陣」が併用されていたのではないのでしょうか。

41と61字の赤い破線はおおよその場所です。
目安として考えてください。



「五位山」という名の由来



「五位山」という名の由来は、5か所の山や丘の頂がある(あった)場所という地勢から名づけられた地名(小字名)だそうです。

三和橋付近より東に向かって小型無人機で撮影しています。



三留誌 P10

朝倉氏一族と正壽寺

朝倉家系図

一代 広景

二代 高景

三代 氏景

四代 為景

五代 教景

六代 敏景(家景・教景)

教景(宗滴)

敦賀郡司

死後の指揮を景高がとる

景儀

七代 孝景

三留城落城の折、戦死

景総

景冬

八代 氏景

三代:三留城主一揆で戦死

景久

景豊

景信

九代 貞景

千代雅丸

朝倉本家に反逆し宗滴と戦い戦死

二代:三留城主三留城落城の折、戦死

一〇代 孝景

正壽寺の開祖

十一代 義景

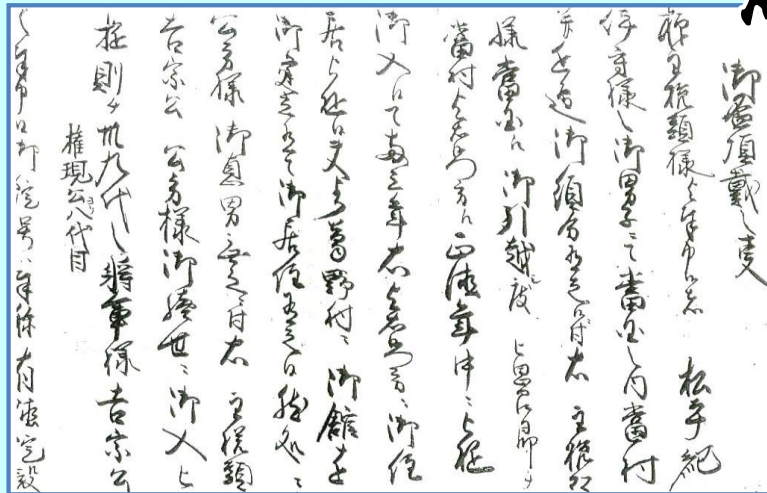


三留誌

P18

福井藩の削封と三留

この資料を
要約すると



第八代徳川将軍の吉宗公がまだ十三才の時、天下村の庄屋、石川庄兵衛家へ立ち寄った際、まだ子どもで世間のことはあまり知らなかったこともあり、玄関から奥座敷へぞうりばきでツカツカッと上がり汚してしまっただが、お帰りの時、御付が「座敷をよごして申し訳ない。建て替えるがよい。」と、金一封を差し出し、その金で建て直した、云々…

名誉な出来事を後世に伝えるために石川家の誰かが書いたもので、いわゆる備忘録です。現在は、石川家の親戚である種池町在住の坪川家が所蔵しています。

なお、吉宗公が旧清水町などに立ち寄ったという公式な記録は残っていないようですが、本資料などによりお立ち寄りした事実は間違いなさそうです。



三留誌

鯖江藩主間部家について

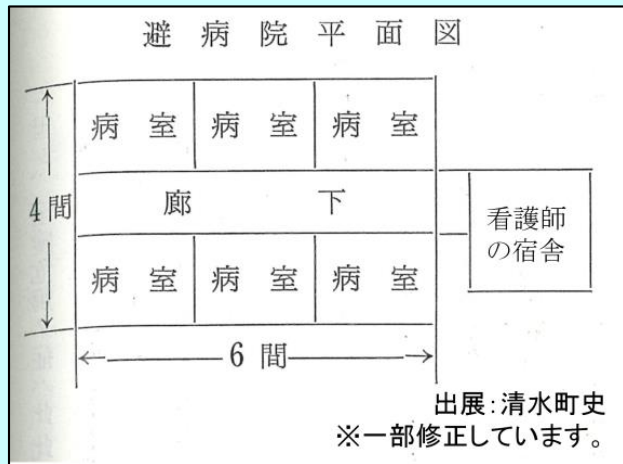
P21

詮房の石高増加表

年号	西暦	地位	年令	禄米
貞享元	1648	小姓	19才	250俵
貞享3	1688	側役	21才	350俵
貞享4	1687	両番格	22才	550俵
元禄元	1688	奏者番格	23才	700俵
元禄12	1699	用人	34才	1200俵
元禄16	1703	用人	38才	1500俵
宝永元	1704	奥番頭（書院番頭格）	39才	1500俵
宝永2	1705	側役	40才	3000石
宝永3	1706	若年寄格老中次格	41才	10000石
宝永4	1707		42才	20000石
宝永6	1709	老中格	44才	30000石
宝永7	1710	上野国高崎城主	45才	50000石
享保2	1717	越後国村上城主	52才	50000石



三留誌 P23 牢屋敷 (隔離病舎)





SHM-015

清水東地区



三留誌 P24

氣比神社祭礼と催し



秋の氣比神社例大祭
(平成30年9月2日)



SHM-016

清水東地区



三留誌 P28

再建前の正壽寺
(昭和50年代中頃)



現在の正壽寺と比べても、たたずまいはほとんど変わりません。



正壽寺本堂の新築と再建



三留誌 P29 正壽寺本堂の新築と再建

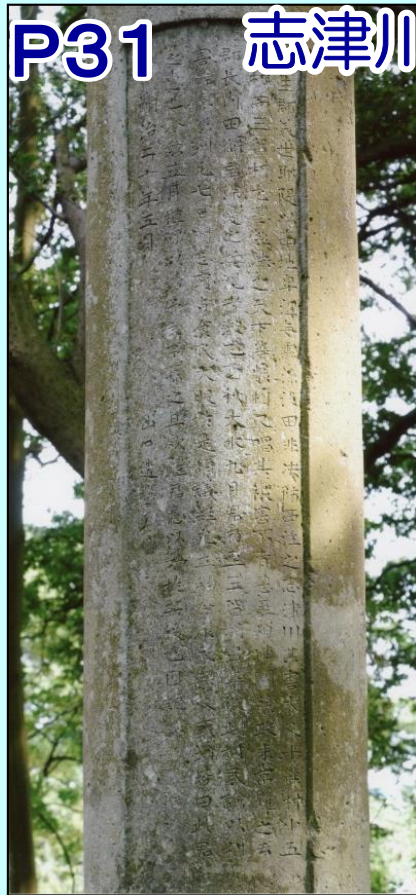


再建直後の正壽寺(平成3年10月)
鐘楼門はこの10年ほど後に再建されました。



三留誌

P31 志津川下流の改修



内田衛氏の碑

※裏面の文言は難解で
要約が困難です。



三留誌 P32

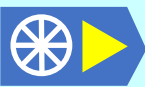
志津川下流の改修



現在の志津川橋
(地籍は和田町になります。)

昭和35年頃の志津川堤防
右岸道路の様子。小羽境の
71字御墓山付近から撮影さ
れたもの。遠くに氣比神社の
森が見えます。

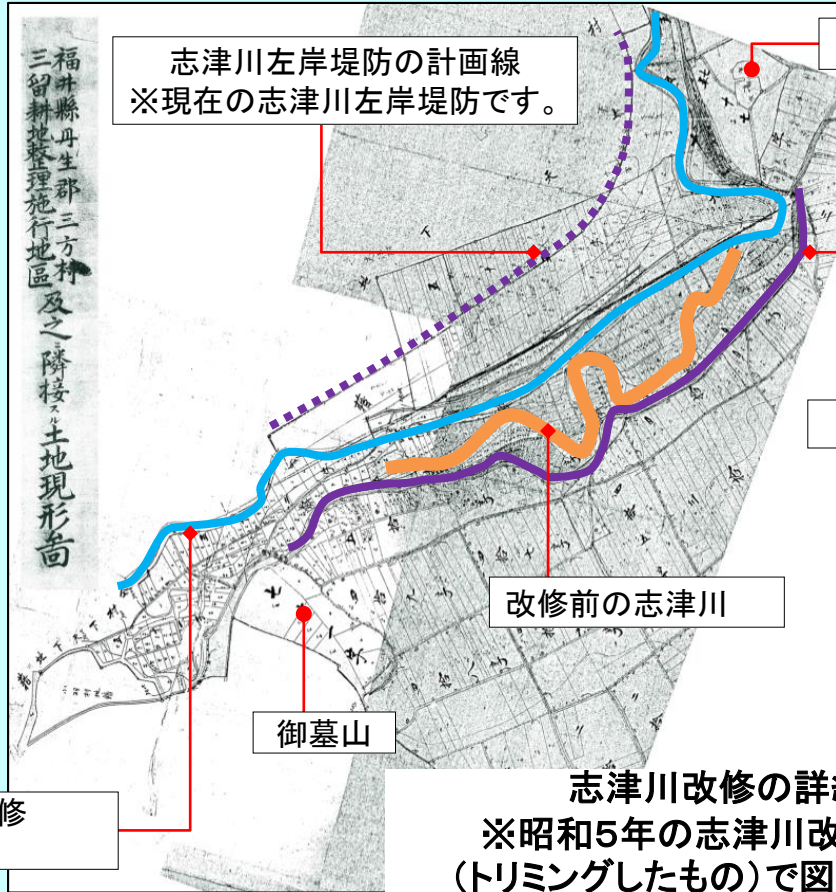




三留誌

P33

五三字 ~五六字 の志津川 の改修



志津川改修の詳細図
 ※昭和5年の志津川改修測量図
 (トリミングしたもの)で図示しました。



SHM-021

清水東地区



三留誌 P34 六才橋の変遷と三和橋



ひとつ前世代の六才橋(昭和50年頃)



三和橋。

ひとつ前世代の六才橋の場所に掛けられました。



六才橋が確認できます。
江戸時代の六才橋はここより更に下流にありました。

昭和23年5月21日撮影

出展:国土地理院ウェブサイト。
一部、写真を切り出しています。





SHM-022

清水東地区



三留誌 P40 用水堰の歴史（一号堰）



現在の一号堰



三留誌

用水堰の歴史

P41 (三留、竹生、片粕の共同堰)



三留、竹生、片粕の共同堰の
あった場所。
今の三和橋のやや下の場所です。



志津川水系・井堰用水

出展: 清水町史



三留誌 P42

三留二号堰。
今の六才橋より
やや下流の場所で、
堰そのものは
残っています。





SHM-025

清水東地区



三留誌 P43



昭和35年頃の田植えの様子

農作業の変遷



普及し始めた頃(昭和35年頃)の
耕運機



普及し始めた頃(昭和40年代)の
歩行田植え機



SHM-026

清水東地区



三留誌 P44 土地改良記録



昭和28年三留土地改良が最初に発注した用水路舗装工事。
今の三幸庵から三留1号堰方面の様子。
写真右側が志津川で、堤防がまだ出来ていません。



SHM-027

清水東地区



三留誌

P44 関連

土地改良記録

※三留誌には未掲載写真



天津土地改良区第一工区(三留、小羽)土地改良工事。

(昭和35年頃)

現在の小羽公民館から向山方面の様子。



SHM-028

清水東地区



三留誌 P48

土地改良記録



西(下天下町方面)に向かって撮影
(平成30年4月)

現在の土地改良された
三留町の圃場の様子。



東(清水杉谷町方面)に向かって撮影
(平成30年4月)



手前左側は商業集積地
北(三留町方面)に向かって撮影(平成30年6月)



SHM-030

清水東地区



三留誌 P50

風水害とその歴史



みっしや堤防のあった場所。排水樋門は残っていますが、近年は使われていません。



SHM-031

清水東地区



三留誌 P52 水害対策と清水土地改良区



旧清水町役場前(三留町)より
ボート上にて写した南側地域(昭
和34年8月15日)。写真右下の
白い線はボートの縁。
出展:清水町広報 昭和34年9
月号

現在の同じ方角。遠くに商業集
積地が見えます。





三留誌 P52 関連

風水害とその歴史

※ 三留誌には未掲載写真



旧清水町役場
(三留町)

(昭和34年9月)



駐在所
(三留町)



現在の同じ場所





SHM-033

清水東地区



三留誌 P53

平成十六年度 新嘗祭供御献穀米奉耕の栄



田植えの様子。
中央の白装束姿が基栄さん。



田植え前の奉耕田の全景。 ※一部、写真が繋がらない部分があります。



SHM-034

清水東地区



三留誌 P53 関連

※ 三留誌には未掲載写真

平成十六年度 新嘗祭供御献穀米奉耕の栄





SHM-035

清水東地区



三留誌 P53 関連

※ 三留誌には未掲載写真

平成十六年度 新嘗祭供御献穀米奉耕の栄





SHM-036

清水東地区



三留誌 P54 三方村役場から清水町仮庁舎



清水町役場（昭和35年頃）



清水町役場（昭和43年9月29日 第2
3回国体旗リレー出発式の時）



SHM-037

清水東地区



三留誌

P54 関連

※ 三留誌には未掲載写真

三方村役場から清水町仮庁舎



清水町役場 (昭和43年9月28日 第23回国体旗リレー到着)



清水町役場 (昭和43年9月29日 第23回国体旗リレー出発)





三留誌 P55 三方農業協同組合事務所 • 三方村巡査駐在所



駐在所前(昭和43年9月28日 第23回国体旗リレー到着のとき。写真中央にヘルメットを被った警官が確認できません。)



旧清水町役場跡には清水町農業協同組合三方支所が建設されました。今は三留生産組合の倉庫などになっています。

浸水した三留駐在所(昭和34年8月15日)。昭和44年以降は、三留公民館として使われていました。





SHM-039

清水東地区



三留誌 P56 三留公民館



清水町広報紙(昭和60年1月号)で紹介された完成直後の三留公民館。集落農業構造改善センター完成と紹介されています。



現在の三留公民館。向って左側は福井市消防団清水東分団の消防車両格納庫となっています。



SHM-040

清水東地区



三留誌 P57 清水東小学校になる迄



旧清水東小学校
(昭和40年中頃)

解体工事中の
旧清水東小学校体育館
(昭和50年頃)





SHM-041

清水東地区



三留誌 P57 関連

※ 三留誌には未掲載写真

清水東小学校



親子体育大会

(昭和42年頃)



グラウンド



解体前の体育館の中





SHM-042

清水東地区



三留誌 P58 清水町東保育園



完成直後の清水東保育園



昭和47年3月までは、第3保育所という名称でした。



昭和50年中頃の清水東保育園。



平成21年8月に園は解体され現在は更地になっています。



SHM-043

清水東地区



三留誌 P59 農業機械化と生産組合



大豆の刈取の様子



田植えの様子



小羽町境の三留町50字に作られたパイプラインの揚水機場。左側には、志津川から導水した水を一旦溜めるプールがあります。



SHM-044

清水東地区



三留誌 P63 秋の氣比神社例大祭



秋の氣比神社例大祭(平成30年9月2日)



SHM-045

清水東地区



三留誌 P63 関連 ※ 三留誌には未掲載写真



秋の氣比神社例大祭

(平成30年9月2日)





SHM-046

清水東地区



三留誌 P63 関連 ※ 三留誌には未掲載写真



秋の氣比神社例大祭

(平成30年9月2日)





SHM-047

清水東地区



三留誌 P66 副業としての菅笠作りと 伝統文化



(194) スゲ笠あみ (清水町三留区)

笠縫いや笠干しの様子
出展：丹生郡誌



(195) スゲ笠の乾燥 (清水町三留区)



三留誌 P67 菅の栽培



菅田の刈り取りの様子
(平成30年夏 清水杉谷町)



菅田の刈り取りの様子
(平成30年夏 清水東小学校東側の菅田)

昔の菅田の場所(三留町)





SHM-049

清水東地区



三留誌 P68・69



笠縫いの様子(昭和50年中頃
清水東小学校児童が見学してい
ます。)



笠縫いの様子(昭和40年中頃)



笠の骨作り(昭和50年中頃)



SHM-050

清水東地区



三留誌 P74 みとめ工業団地



南に向かって撮影



三留工業団地



SHM-051

清水東地区



三留誌 P75 商業集積地



建設中の商業集積地(平成18年6月頃)
※膳野菜などの建物は既に完成しています。



商業集積地 ※北西に向って撮影



三留誌 P75 商業集積地

中心市街地 街づくり事業着手



西に向かって撮影

中心市街地
街づくり事業
計画図

- 商業ゾーン
- 公共ゾーン



町道757号線(広城農道)

最重要プロジェクトとして取り組んできた「中心市街地街づくり事業」の工事にこのほど着工しました。平成17年度から各施設が整備され、平成20年度には、隣接する「きららパーク」などと合わせて、健康、福祉、文化、スポーツ、商業などの施設を一カ所に集めた拠点施設が完成する予定です。

計画地は、町内を南北に走る町道第757号線(広城農道)の西側に位置し、三留、杉谷、風巻にまたがる約14ヘクタールの土地(現在造成中)です。町道第310号線をはさみ、南側の公共ゾーンと北側の商業ゾーンに分けられます。

公共ゾーンには、平成17年度末に「清水町保健センター」が、平成19年度には「診療所」と「保育園」が建設される予定です。完成後は、施設間で互いに連携を回り、子どもからお年寄りまでを対象にした保健、福祉、医療サービスを一カ所で提供できるようになります。一方、商業ゾーンでは核店舗の(株)PLANT、越前丹生農業協同組合の「農産物直売所(ファーマーズマーケット)」、光タクシー(西)、福井ダイハツ販売(株)が平成18年のオープンを目指しています。





SHM-053

清水東地区



三留誌

発効 平成31年2月